

第46期 中間報告書

平成26年5月1日～平成26年10月31日



株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第46期第2四半期累計期間（平成26年5月1日～平成26年10月31日）の報告書をお届けするにあたり、業務の概況及び業績等についてご報告申し上げます。

本年度前半におけるビジネス環境は「営業の概況」でご説明いたしますように、雇用環境の改善や景気回復への期待感が高まったものの、食品関連の包装材事業を中心に据える当社経営環境としましては、消費税率引上げによる影響や物価上昇に伴う実質所得の影響など、個人の生活防衛意識は根強く、厳しい状況から脱するには今しばらく時間がかかるものと思われれます。

このような状況のなか、当第2四半期累計期間の連結ベースの売上高は12億92百万円、経常損失は2百万円、四半期純損失は5百万円となりました。

当社グループは、「変化を恐れず、挑戦し続け、チャンスをつかむ」、すなわち、「CHANGE、CHALLENGE、CHANCE」をスローガンに以下の重点施策、

- ①主力製品のパワーアップ：主力5品目の強化
- ②次世代製品へ果敢に挑戦：既存製品の用途開発とシーズ型新製品の開発強化
- ③次世代を見据えた新興市場へ勇気ある挑戦：大市場がある海外戦略を明確化

に取り組んでおりますが、上期の厳しい経営実績を反省し、新たに下期の体制強化を図っております。

営業力の強化、営業及び開発の連携強化を目的に社内体制を変更し、上記重点施策の達成と通期予想の必達に向けて社員一同邁進してまいります。

なお配当金につきましては、上記業績であります。株主の皆様への継続的・安定的な配当とする方針などを総合的に勘案し、中間配当金として1株当たり4円とし、支払開始日を平成27年1月8日とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解をいただき、今後とも引き続き変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年1月



代表取締役社長
三宅利定

通期の見通し

第46期（平成26年5月1日～平成27年4月30日）通期につきましては、消費税率引上げ延期の個人消費への影響や国内景気がどこまで回復するのか、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移するものと思われます。更に、為替や原油・ナフサ価格の動向は当社経営にとって大きな変動要因でもあります。

このような状況ではありますが、本年度の重点施策達成により通期予想を必達する所存であります。

売上高	通期予想 (第46期) 2,700百万円 前期実績(第45期) 2,653百万円	(前期比) 1.8%増
営業利益	通期予想 (第46期) 25百万円 前期実績(第45期) 36百万円	(前期比) 31.6%減
経常利益	通期予想 (第46期) 33百万円 前期実績(第45期) 55百万円	(前期比) 40.6%減
当期純利益	通期予想 (第46期) 12百万円 前期実績(第45期) 24百万円	(前期比) 50.4%減

営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の金融緩和策等の効果により雇用環境の改善や景気回復への期待感が高まったものの、消費税率引上げによる生活防衛意識は根強く残り、消費税増税前の駆け込み需要の反動や物価上昇に伴う実質所得の影響などから、先行き不透明な状況のまま推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは新5層フィルムによる多角的に市場をつかむ活動を継続中であり、新規案件の獲得に努めてまいりました。その中で、第1四半期に供給を開始した5層広幅フィルム及び深絞り市場向けボイルタイプのフィルムなどの拡販が進みましたが、消費税増税後の需要の落ち込みをわずかに補うことができず、その結果、売上高は12億92百万円（前年同四半期比1.3%減）となりました。

利益につきましては、全社あげてのコスト削減に取り組みましたが、売上が予想に届かなかったことや、当初見込んでいた原材料価格アップ分の販売価格への転嫁が市場競争の中で困難であったことから、営業損失が7百万円（前年同四半期は営業利益15百万円）となりました。また、受取利息や作業くず売却益の計上等を加えた経常損失は2百万円（前年同四半期は経常利益25百万円）、四半期純損失は5百万円（前年同四半期は四半期純利益7百万円）となりました。

用途別の売上高につきましては、食品分野では、消費税増税の影響による個人消費減少は続いておりますが、三方規格袋の増加及び深絞りフィルムの拡販で補填することができました。その結果、7億93百万円（前年同四半期比1.0%増）となりました。

非食品分野では、医療分野において第1四半期同様の在庫調整や自動車国内向け製品の減少など、大口需要の減少が続きました。その結果、2億34百万円（前年同四半期比8.8%減）となりました。

商品等につきましては、突き刺し強度の高いフィルム（SPパック）は堅調な推移が続きましたが、その他商品の取扱いが減少しました結果、2億63百万円（前年同四半期比0.8%減）となりました。

用途別売上高は次のとおりであります。

■ 売上高の内訳

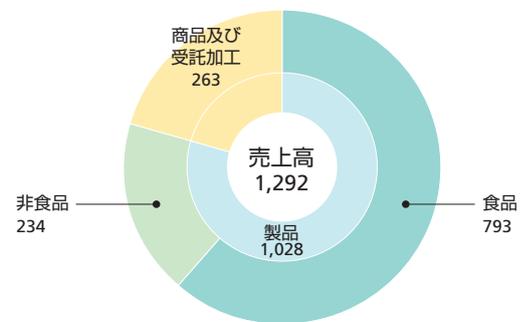
(単位：百万円)

用途別		第46期第2四半期累計 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	前年同四半期比(%)
製 品	食 品	793	1.0
	非 食 品	234	△8.8
	製 品 合 計	1,028	△1.4
商品及び受託加工		263	△0.8
合 計		1,292	△1.3

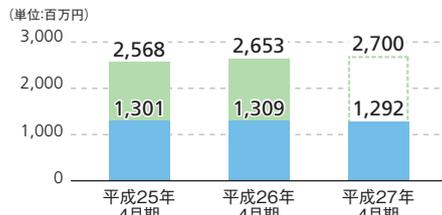
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 第46期第2四半期累計実績

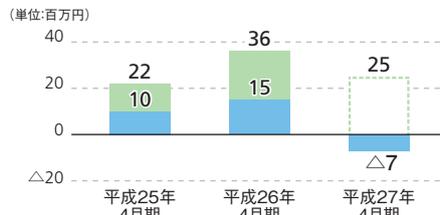
(単位：百万円)



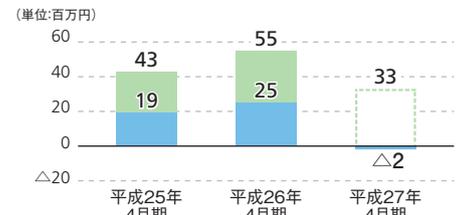
売上高



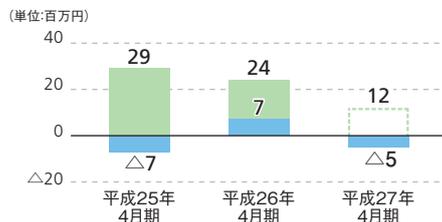
営業利益



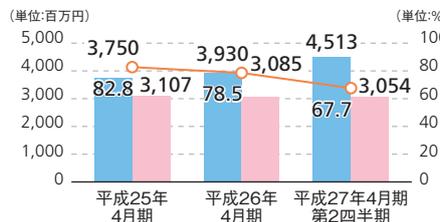
経常利益



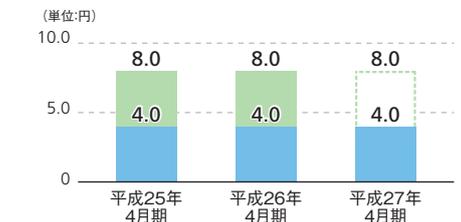
四半期(当期)純利益



総資産、純資産、自己資本比率



1株当たり配当金(年間)



トピックス

当社の生産ロス及び不良製品の再生化が可能に！

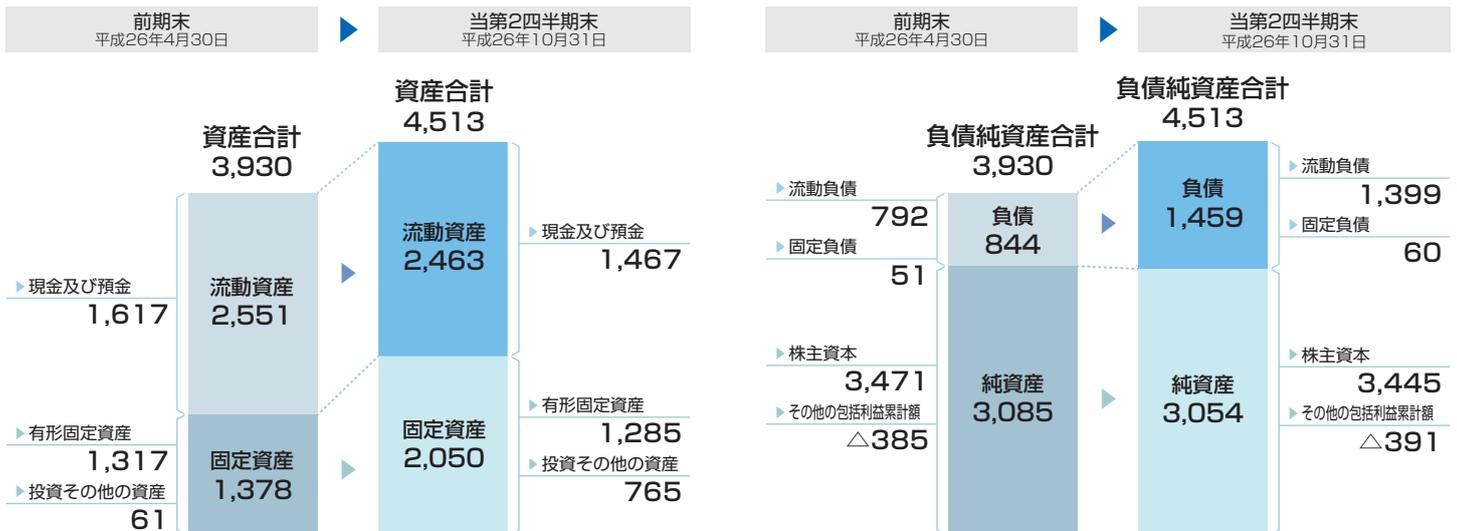
当社は環境活動に積極的に取り組んでおり、その一例として、製品ロスの再生ペレット化及びリサイクル製品化が可能な業者への販売を開始することとなりました。

今まで、印刷済みの生産ロス及び不良製品については、燃料として最終処理を行う業者に引き取ってもらっていましたが、この度、再生製品用原料としての販売先が国内で見つかり、当社としては費用削減に繋がり、社会的にも資源の更なる有効活用ができるようになりました。実質的なゼロエミッションの達成に向かっております。



四半期連結財務諸表

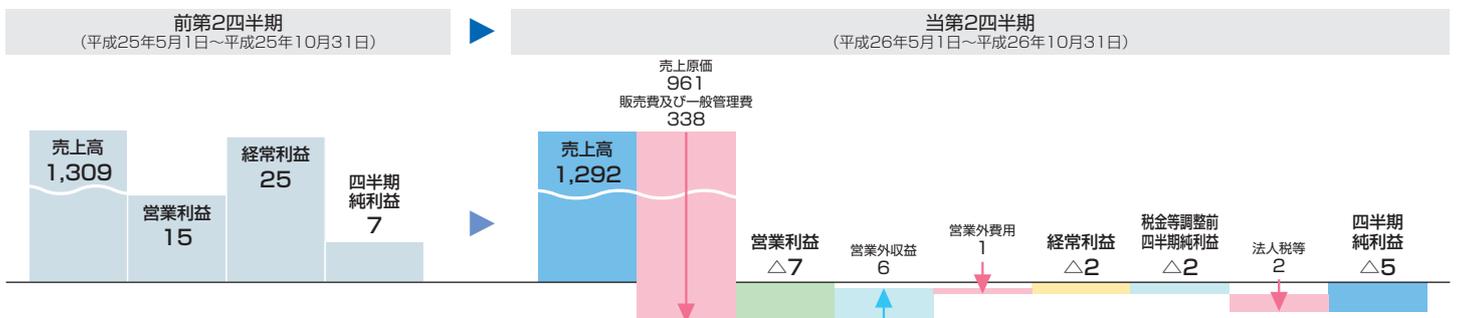
■ 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



補足説明

- (資産)** 当第2四半期連結会計期間末における流動資産は24億63百万円となり、前連結会計年度末に比べ88百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が76百万円増加したものの、現金及び預金が1億49百万円、原材料及び貯蔵品が8百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は20億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億71百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が7億4百万円増加したものの、建物及び構築物が11百万円、機械装置及び運搬具が26百万円減少したこと等によるものであります。この結果、総資産は、45億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億83百万円増加いたしました。
- (負債)** 当第2四半期連結会計期間末における流動負債は13億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億6百万円増加いたしました。これは主に未払金が7億10百万円、その他の内、設備未払金が9百万円、未払消費税等が5百万円増加したものの、その他の内、設備支払手形が1億18百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は60百万円となり、前連結会計年度末に比べ8百万円増加いたしました。これは主にその他の内、リース債務が7百万円増加したこと等によるものであります。この結果、負債合計は、14億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億15百万円増加いたしました。
- (純資産)** 当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は30億54百万円となり、前連結会計年度末に比べ31百万円減少いたしました。これは主に四半期純損失5百万円、剰余金の配当20百万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は67.7%となりました。

■ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



補足説明

- ① 営業活動の結果得られた資金は0百万円となりました。これは減価償却費56百万円、たな卸資産の減少5百万円、未払消費税等の増加6百万円、利息及び配当金の受取額3百万円等があったものの、売上債権の増加76百万円等があったことによるものであります。
- ② 投資活動の結果使用した資金は1億24百万円となりました。これは貸付金の回収による収入8億円があったものの、有形固定資産の取得による支出1億24百万円、貸付けによる支出8億円等があったことによるものであります。
- ③ 財務活動の結果使用した資金は24百万円となりました。これは配当金の支払額21百万円等があったことによるものであります。

会社の概況

(平成26年10月31日現在)

社名 MICS化学株式会社
資本金 7億74百万円
創業 昭和34年2月
従業員 78名(他に臨時雇用者14名)
主要な事業内容 多層チューブフィルムの製造、販売
ウレタンチューブフィルムの製造、販売
グラビア印刷ならびに製袋加工
シュリンクラベルフィルムの加工販売
その他合成樹脂製品の販売
本社 愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158-89
電話 0561-39-1211
URL: <http://www.c-mics.com/>

役員

代表取締役社長 三宅利定
取締役 伊藤公一
取締役 伊藤久美
取締役 丸山等
取締役 伊藤聡
取締役 稲垣功二
常勤監査役 長谷川隆
監査役 田中孝治
監査役 佐原司郎

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

事業所

(平成27年1月7日現在)

札幌営業所 札幌市手稲区新発寒6条1-1-5
仙台営業所 仙台市青葉区本町1-14-18
東京営業所 東京都中央区日本橋大伝馬町17-1
名古屋営業所 愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158-89
大阪営業所 大阪市福島区福島1-3-11
広島営業所 広島市南区京橋町9-3
福岡営業所 福岡市博多区豊1-8-21
本社製造所 愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158-89
東京製造所 埼玉県越谷市小曾川字居377
札幌製造所 札幌市手稲区新発寒6条1-1-5

子会社

エイワファイン
プロセッシング株式会社 埼玉県越谷市大間野町3丁目108番地
米可思化学商貿
(蘇州)有限公司 中国江蘇省蘇州市高新区獅山路88号

株式の状況

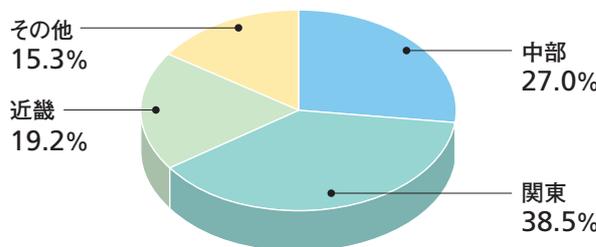
(平成26年10月31日現在)

発行可能株式総数 23,850,000株
発行済株式の総数 5,850,000株(自己株式610,606株を含む)
株主数 1,341名
上位10名の株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
盛田エンタプライズ株式会社	2,608	44.58
名古屋中小企業投資育成株式会社	210	3.58
MICS化学従業員持株会	137	2.34
MICS化学取引先持株会	128	2.19
株式会社三井住友銀行	120	2.05
歌川勝久	60	1.02
林隆司	52	0.89
日本証券金融株式会社	51	0.88
奥田耕三	45	0.76
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	43	0.74

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式610千株があります。

地域別株主構成



株主メモ

事業年度 5月1日～翌年4月30日
期末配当金受領株主
確定日 4月30日
中間配当金受領株主
確定日 10月31日
定時株主総会 毎年7月
株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ市場
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.c-mics.com/>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



MICS化学株式会社

(証券コード: 7899)

愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158-89
電話 0561-39-1211(代)

